

資料

ジョン・グレイ『社會的制度』 (1)

高橋次郎

序論に代へて

一 リカアドウ派社會主義

第十八世紀末から第十九世紀始にかけてイギリスの生産業特に紡績業は急速に資本主義化した。そして、労働者に對しては種々なる弊害を及ぼした。そこで、當時、此の新興の資本主義的生產方法に對して、富の分配方面から、反對の聲を擧げた一群の人々があつた。それらの人々は、新興資

本主義に反對して新なる分配制度を提唱した點に於いて『社會主義者』であり、尙ほ又リカルドウの勞働價值説から發足して勞働全收權を主張の基礎として居る點に於いて『リカードウ派』なる限定詞を冠せられるのを普通として居る所の、所謂『リカードウ派社會主義者』 Ricardian Socialists である。此の派の社會主義者の多くがその理想社會の構成を案出するに當つて、多かれ少かれ、かのロバート・オウエンの協同社會の影響の下に立つたのである。通例、リカードウ派社會主義に屬する人々は、

チャールス・ホール (Charles Hall)

キリアム・タムスン (William Thompson)

ジョン・グレー (John Gray)

トマス・ホヂスキン (Thomas Hodgskin)

ジョン・フランシス・ブレイ (John Francis Bray)

トマス・ロウ・エドモンズ (Thomas Rowe Edmonds)

の六名であつた。

彼等の描ける未來の理想社會は各人各々その趣を異にして居るけれど、兎に角、彼等は經濟的平

和的手段によつて即ち啓蒙運動によつて、舊社會の埒内に於いて新社會の創造を期望すると言ふ空想的社會哲學者の特質を共通にして居た。けれども、彼等がかの『空想的社會主義』者ゴドキン、フリーリエ、カペー、ワイトリングなどと區別せられる所以のものは、實に彼等リカアドウ派社會主義者はリカアドウ流の勞働價值説を基礎としてそれから一定の推論を引き出した所に在る。斯くの如く社會主義の土臺として勞働價值説を應用したと言ふ點に於いて、リカアドウ派社會主義者はマルクスの科學的社會主義を豫説したと言ふ事は疑のない所である。假令、彼等はその勞働價值説を更に立入つて吟味しようとはせず、眞向からそれを正當なるものと認め、其處から發足して推論の歩を進めて行つたとは言へ……………(註一)。

(註一) 堀經夫氏著『リカアド派社會主義』森戸辰男氏譯『全勞働收益權史論』(アントン・メンガー)

## 二 『社會的制度』

ジョン・グレイは、此の一派の中でも、ホヂスキンと共に「整然たる經濟的論議をやつて居る」論客である。その著『社會的制度。交換の原理に就いての一論』は一八三一年エデンバラに於いて出版せられ、その扉には

「經濟學者は、特殊の階級の富と享樂とを増進せしめる爲めに、或る制度を樹立したり或る計劃を工夫したりせず、國民的富及び一般的繁榮の源泉を發見する爲めに、専心從事すべきである。」——マカロック

と言ふ一文が掲げられて居る。尙ほその次の一頁には次の如き題寄を見出す。

「本書を、

### 眞理と正義

とを

歡待せられる意見及び既設の習慣

から區別する人々、

並びに、

### 全人類

の

状態を改善し、その品性を向上せしむるために、

最も良く考察せられて居る

原理の樹立に、喜んで助力を與へん

として居る人々に、

最も恭敬して、題寄す」。

正直なるジョン・グレーは、彼の『社會的制度』の出現後十六年にして、同一の發見に對する特許が、發明の才あるプルードンに依つてとられようとは、考へて居なかつたのである。

労働時間を貨幣の直接の尺度單位と看做す學説は、ジョン・グレーに依つて始めて組織的に説明せられたのであるが、之に對してマルクスがその著『經濟學批判』(一八五七年刊)の第一編第二章「貨幣或は單なる流通」の中に於いて四頁に亙つて批判を加へて居るのは有名なことである。

### 三 ジョン・グレーの傳記

ジョン・グレー John Gray (1799—1850?)の傳記は、今の私の知る限りに於いては、たゞ一つの源泉を除けば別に信憑すべきものを見出し得ない。そこで、幾分の不備は免れないが、主として此の唯一の源泉即ち『社會的制度』の附録を抄録することによつて、彼の傳記を見て行かうと思ふ。

デアビー州のレプトン學校に五年間學んだ。が其處では樹登りしたり魚を捕へたり石彈を弄んだりして殆んど學習しなかつた。

十四歳にして學校を去り、ロンドンの大なる製造卸賣商に於いて賤しい務めに眞面目に従事した。

此の頃に至るまで殆んど何も本を讀んで居なかつたので反省の資料が缺乏して居たが、やがて觀察のための豊富なる糧をロンドンに見出した。グレーは商用でロンドンの隈々まで歩きロンドンを知つた。併し乍ら、ロンドンの街は彼にとつてはその欺ける莊麗の全部を失つてしまつた。そこに彼は、何一つ彼を満足させるものがなく、迷はせるものばかりを観た。何かが間違つて居る。此の血と肉との躍動せる塊の中には何等かの巨悪なる誤謬が伏在して居るに相違ないと言ふ疑惑は、グレーを憂鬱な半ば惑信的な状態に化してしまつた。

やがて、彼の境遇が幾分か良くなつたので、熱心に『賣買の理論』——當時彼は賣買の實地に就いては絶大の造詣を有して居た——を熱心に研究した。そして、他の著作の力を借りずに——何となれば、彼は未だ經濟學の問題に關して一行だに讀んだ事がなかつたのだから——、此の『社會的制度』の結論に到達したのである。

斯かる大發見を胸にして、スミスの『諸國民の富』第一卷を讀んだ後、グレーは自分の理論を紙に書き下した。是即ち『國民的商業制度』The National Commercial System と呼ぶ亂暴な・くだら

ない・難解な・そして改訂の出来難い一卷を編輯した。此の未刊の書の内容は、『社會的制度』のそれと、唯一の單一金屬貨幣制度を主張して居た點を除外すると、その本質的な考へ方に於いて、異なる所がなかつた。それを彼の聰明な友人の閲讀に供した所が、そんなものを讀むのは時間の浪費だから燃してしまへと言ふ無愛想な忠告に接した。それは印刷に附せられなかつたが、グレイは自分の表現の拙劣が災して自分の意見が他の人には理解出来ないに相違ないから、何れ期を見てもつと理解し易く書き改め様と考へて自ら慰めて居た。所が、此處に、ノース・ブリテツシ・アドヴァタイザーの經營者たる彼の兄弟ジェームス・グレイが在つて、ジョンにオウエンの著作を讀ました。それまでジョンはオウエンを知らなかつたが、その本を讀んで見るとその結論が實質的には自分のと同一であつたので、ジョンは今更自分が出版すると唯剽窃呼はりせられるに過ぎないと思つた。その後、一八二五年一月、上述の著作の一部をば講義の形式に書き改めて出版した。此の『人間の幸福に就いての講義』A Lecture on Human Happiness は、オウエン案の攻撃であつて、その實質は『社會的制度』の第九章『社會の評論』中に包含せられて居る。此の小冊子は忽ち二三百部賣れ、その後フィラデルフィアに於いて再版せられて一版一千部が飛ぶ様に賣れた。ジョン・グレイのその他の著作に比してヨリ革命的でありヨリ社會主義的であると稱せられて居る此の小冊子は、

斯くて啻にイギリス許りでなく『自由研究者』を中心とするアメリカの社會主義團體にも大なる影響を及ぼした。之に刺戟せられてアメリカでは『職業組合員に與ふるの書』が出版せられるに至つた。

グレー案とオウエン案とは異つて居たが、グレーは協同の原則に絶大の重要性を附する事によつてオウエンに同意しようと考え、オウエンの計劃が正に實驗を開始せんとするの報を耳にして、店をやめて——そこに居れば容易に立派な地位につく事が出来たのであるが——オービストンに赴いた。其處に到着するや否や、その組合の經營が頭腦明晰なる實務家の手中にない事を發見して残念に思つた。又、作業案が紙に書きつけられても居ないのを見た。そこで、これは失敗するだらうと思つたので、忠告する所があつたが何等の効驗もなかつたから、その事業から彼は手を引いてしまつた。

必ず損失を招くに決つて居る投機に幾千万磅を投じたのを見て、煩悶し失望した揚句、グレーは一八二六年六月二十九日、『彼等の現在の行動を統制すべき原則に關して、オービストン主義者に與ふる忠告の一語』A Word of Advice to Orbistonians, on the Principles which ought to regulate their present Proceedings. なる一論文をものした。そして、それをオービストンに於ける所有者及び小作

人連に分配するために二三百部印刷した。これは『社會的制度』の附録の中に抄録せられて居る。

その後、彼はエデンバラに居住し、一週間熟考の末、一八二五年に *The Edinburgh and Leith Advertiser* と言ふ無料廣告新聞を始めて成功した。他の同業者はこれを喜ばず、大藏省に請願して無料印紙税新聞紙上の廣告の出版に反對する議會の法律を得たので、グレーはそれを廢刊するのやむなきに至つた。

併し乍ら、資本を支配し得たので、兄のジェームスの編輯の下に、共同で彼は同一名稱の無料新聞をば正常の新聞に改變して發行した。しかし、經驗及び資力の欠乏と、通貨問題に於いて人氣のない側に味方したために、此の新聞は五十三號までで廢刊となつてしまつた。

そこで、彼等は *North British Advertiser* と言ふ廣告掲載の無料新聞を設立した。

一八三一年『社會的制度』を公刊してから後、ジョン・グレーは左の書物を出版した。

*An Efficient Remedy for the Distress of Nations.* 1842

*The Currency Question.* 1847.

*Lectures on the Nature and Use of Money.* 1848.

而して、一八四八年のフランスに於ける二月革命の後に、グレーはフランスの假政府に一の建議

書を送り、フランスは『労働の組織』を必要とするものではなく『交換の組織』を必要とするものである事を佛の假政府に教えた。此の交換の組織なるものは彼の考察せる貨幣制度に於いて完全に劃策せられて居る。

以下に掲げるものは、ジョン・グレーがその理想社會を描ける『社會的制度』の翻譯である。原本は日本には數冊よりない貴重な古典的文献である。その使用の便を賜つた東北帝大堀經夫教授に心からの感謝をさしげる次第である。

## 社會的 制度

### 序 言

或る根深き而かも隠蔽せられたる疾患が社會の心臓の中に存在して居ると言ふ信念が、始めて私の心に銘刻せられてから、長い年月を経過した。而して、此の主題に關する繼續的考反省は、ただ此の意見を確證し強力ならしめんとするのみであつた。

我が社會的制度の中には自制的原理が存在して居る。而して、商業の流れは、水の流れの如く、ただそれ自身の水準を見出して平滑に順調に流れて行くものである、と言ふ見解が人類の間に流行して居る様に見える。私は十年前に、斯かる原理の存在を疑つた、そして今日それを否定する。又、私は、資本の使用を聯合する方法以外の方法によつて吾が國の困窮を有効に取り去る事が出来る、と云ふ事を否定する。而して、私は確信する、良く咀嚼せられたる原理の下に於て、又改良せられたる交換組織を以て、斯くの如く資本を聯合する事によつて、不當の貧困は取り除かれ、各種の商業的困難は消滅し、而して國民的繁榮と同様に個人的繁榮も豊富なる不滅の基礎の上に樹立せられるであらう、と。

私の生涯の初期に於て、私は、此の主題に就いて當時私が抱懷して居たところの私見を紙に書きつけた。そして、その原稿をばその當時又はその時以來私の持つて居た所の最も聰明なる友人に送つて、閲讀の榮と著作に就いての意見とを要求した。此處に、彼の返信の逐字的の寫しがある——「私は、要求通りに、此の著作に關する二三の觀察をなすつもりであつた。そして、さうするつもりで、私はそれを根氣よく讀み通した。しかし、最終の部（著作はその時三部に分れて居た）の第三章を精讀した後に、私は、如何なる觀察も單に時間の浪費に過ぎない、と云ふ事を悟つた。私は敢て忠告

したい、此の本をそれを燃やすのに充分なる大きさの臺所の火の中に投げ入れよ」と。

私の友人の評決は、確かに御世辭の良いものでもなく、又激勵せしむるものでもなかつた。併しながら、私は彼の忠言に従つて行動せんとする心變りは少しも持たなかつた。そして、多分言葉の瞬昧なるがために、私の陳べようと志して居た所の意見を彼が理解しなかつたのだと云ふ事が極めて明白だつたので、私はいつか將來の時期に於て私の見解をばもつと明白なる理解し得べき仕方て陳べる事が出来るであらうと言ふ望を抱いて、私は自分自身を慰め様と努めた。而して、私は、私が今それを果した事を確信するものである。

その後、或る時、私は上述の著作の一部をば講義の形式で再び書いて出版した。それは、忽ちに於て、二三百冊賣れた。そして、殘部はロンドンの出版屋の手許に置いて置いたが、その出版屋がその後間もなく失敗してしまつたので、私はその時以來今日に至るまでその殘部が如何なつたかと言ふ事については正確に探聞する所がなかつた。私の言及して居る小冊子は、その後、フキラデルフキアに於て、再版に附せられ、其處で一千部の一版ひとすぢが飛ぶが如くに賣り切れてしまつた。

私が前に書いたものを今出版に付する理由は、此の著作をばそれがその當時に在つた所の状態に於て發行するの權利に關する限りに於て、私の友人の批評の正當なる事を認めなければならぬか

らである。而して、その中で、後に至つて印刷せられたる部分は、私の知つて居る限りでは、如何なる場合に於ても、廣告せられなかつたから、又それを大衆の前に齎らすためには唯二三の趣意書の發行を除いては他に何等の手段も講ぜられなかつたから、私は、此處に、慣例となつて居る引用符を付けずに、私が現在保留して置くに値すると考へて居る所の、それが包含して居る所の極く少數の文章を引用する事とする。

併し乍ら、私は如上の小冊子をば忘却の中から救ひ出さうと思つては居ない。因みに、その小冊子は現在の主題に對する單なる序論であつたし、又如何に事態が改良せらるべきかを説明する試圖を少しも包含して居なかつたのである。私が現在の著作は少しも如上の欠點をもつて居ないと考へて居る、と想像するなかれ。幼時から生活上の活動的なる業務に全く忙殺せられて居たので、私は此の氣難しい時代に於ては完成せる著者たるの資格は極めて本質的なる文献的資格を獲得するの機會を有して居なかつた。しかし、此の資格は、如何に疑もなく重要であるにしたところで、現在の場合に於ては不可缺のものであるのではない。詩人或は小説家は、彼が成功し得る前には、思想並びに言辭が豊富であらねばならない。しかし、單に意見を述べる様な場合には、平凡なる人間は、一般に彼自身のやり方で、彼の心を語る事が出来る。實際、現在の多くの人は、充分に理解し得

られる言葉の中に、その思想を入れることが出来る。而して、此の小著の目的は、想像を喜ばせるのではなく、判断を補助するに在るから、理解せられると言ふ事は、作文の如くに、そが翹望して居る事の全部である。

國民の商業的利益なる題目が始めて私の心を捕えてから經過した數年の年月——その間に於て、私は肉體的努力並びに精神的憂慮及び苦惱を充分に味つた——は、自然的に満足し樂觀的なる心の熱心さを減ずる事に向つて何ものかを爲した、と私は信ずる。しかし、附加的の思索・反省及び經驗は唯次の様な私の信念——即ち、社會の商業的事件の中には、松葉杖を以てのみ支える事の出来る所の舊時代の老朽ではなく、寧ろその力と活動性とを蘇生せしむるためには、唯若木の根元から抜き取られる事のみを要する所の荆棘に類似して居る所の驚くべき悪弊が存在すると言ふ事——を確めたのみであつた。此處に述べた意見は、實質的には、數年前私が懷いて居た所のものと同じである。しかし、それは今始めて出版せられるのである。

筆法に就いて、一言御詫びをして置く。主張の勇敢なる事、自分自身の意見に充分の信頼を置いて居る事、並びに他の人々の意見を無視する事は、無經驗なる著者達の犯す普通の誤りである。而して、その誤りは、私の中にも在る。併し乍ら、私は、私にとつては自然的でない所のより多く馴

れてゐて精練されざる筆法を人真似するよりも、斯くの如く自由に私自身を表現する方が非常に容易である事を、見出すのである。此の本は、私が之等の誤謬を訂正する能力を缺いて居る事によつて傷付けられるかも知れない。しかし、此の本の中に書き記されて居る理論に對しては、斯様な辯解は少しも提出せられない。本書は、實業界との恒常的なる長い間繼續した親密によつて、私の心の中に強ひられたものである。他人が同一題目に就いて書いたものを注意深く検討した後始めて本書が消化せられ組織的の形態に化せられるのであつて、若しも本書が、最も完成せられたる殘忍なる政治家或は經濟學者が本書に對して浴びせかけ得る所の最も烈しい火の試練に堪へることが出來ないで、恰も鐵の標的が撃ち當る彈丸を平くしてその足下に振り落す様な事があるとしたならば、私は最早その提唱者として殘留して居るのを見出されなくなるであらう。

エゲンバラ、ブランドン街、十四、

一八三一年十月。

## 第一章 緒 論

緒論——主題の困難——個人的なる事柄に對する關心——社會科學研究に對する一般的嫌厭——均衡のとれた全體を構成する様に、各部分が相互に適應する事の必要——實質的進歩の可能性に對する一般的不信任、並びにそれに對する重大な

る障碍——恵まれたる現在の事態——理論と實際——雜多なる觀察。

凡そ、人類全體の繁榮と云ふ問題に就いて仲間の人間に意見を述べんとする人によつて企てられる仕事ほど厭な仕事は、恐らく他にないであらう。人類は、一般に、各自の個人的な事柄に全く心を奪はれて居るから、極く暫らくの間でも此等の事柄に無關心であることは不可能に近い。但し、自分の愛好する或る説を自身に有つて居る場合か、さもなれば現状の變化が彼等の判断によると少しも進歩でないと考へられる程に現状に満足して居る場合は、必ずしもそうでない。

而して、不幸にして、社會科學の研究は、長い間、最も無味乾燥な仕事の一つであるといふ極印を押されて來た。斯くて、個人に對する直接の利益が豫期された結果である場合には、何んなことでも人類を勤勉にするやうであるが、併し、それを基礎として人事の總體が進行し又進行すべきである所の諸原則の探究に喜んで努力する人は殆んどない。

併しながら、少し考へるとわかる様に、全體が或る程度の確實性を以て完全になされ得るのは、單に社會てふ機械の各種の部分の外見的優秀によつてはならない。各部分は總ての點に於て良いかも知れない、が併し若しも各部分が適當の釣合を保たず且つ互に相ひ適應してゐないことが發見されるならば、その結果が不満足であるのは當然であつて、それに就いて吾々は少しも驚く理由はない。

のである。そして、吾々が社會の諸活動は正當なる諸原理に基いて行はれて居るのであるといふことを確信して居る場合の外は、社會が繁榮の諸要素の大多數を具備しつゝ而かも不幸に苦しんで居らうとも、それは決して不思議ではない。

進歩に對する他の甚だ重要なる障礙は、進歩は可能であるといふことを一般の人が信じないことである。民衆の心は、良き賃銀と敏活なる商賣以外に繁榮の状態があらうとは未だ嘗つて想ひ及ばなかつた。そは、議會の改革・自由貿易・並びに租税の包括的輕減以外の變化が必要であると云ふ事を少しも知らない様に見える。事實、社會の一般的制度は、或る不易の基礎・或る不變の自然法則の上に建てられて居るのであるから、社會をば二三の腐敗から淨める事が、社會をして平滑に行せしむるに必要な事柄の全部であり、又吾々が期待する權利或は理由を有する事柄の全部である、と云ふ意見を公衆が持つて居る様に思はれる。

然し、これは致命的誤謬——廣汎にして且つ恐るべき疾患である。それは社會を麻痺させる病であつて、そのために吾々の努力は全く萎微死滅せしめられ、而して、吾々は現社會——吾々はそれを極度に進歩させる力をもつて居るが——の唯々たる奴隸たらしめられるのである。

併し乍ら、現在の事態中には數種の惠まれたる特色がある。大なる利益を齎らすものと前の時代

に豫期された所の多くのものは、既に試みられた。しかし有利なる變動は未だ起つてゐない。戦争は永き平和によつて繼承せられ、租税は輕減せられ、政府の行動は著しく公正となり、善を爲さんとするの意思は顯著となり來り又現に充分顯著である。しかもなほ、根本的進歩の徴候は少しもなく、困窮と不満とは蔓延し續け、そして危険の存在は全然之を否定する事が出來ない。隣國も同様の難境に陥つて居る。疑もなく、大部分は厭政と失政の結果たる革命及び流血は、一般の繁榮と幸福との存在に對する悪い證據である。

然し、斯かる事態には全く何の取柄もないかといふに、必らずしもそうではない。過去の希望と期待とに失望を感じた民衆の心は、害惡の新しい源泉と不満の新しい原因とを發見すべく絶えず目を配るであらう。何となれば、幾世紀に互つて悲惨事を經驗したにも拘らず、世人は尙ほ、事物は正にそが在る可き状態に達しては居ないが、進歩の時代は結局到來するかも知れない——否、確かに到來するであらう、と云ふ漠然たる意見を抱懷して居る様に思はれるから。

又、才能及び廉潔に對して動かざる名聲を有し、且つ最善の知識を同等に有つて居る人々が殆んど何事に就ても一致した見解を有つてゐない様な社會状態に於ては、或る特定の人々又は或る特定の意見に大なる信頼を置き得ない。或る團體は自由貿易を主張し、他の團體はそれに異議を唱へ

る。一は節減と緊縮を唱へ、他は租税は積極的の利益であると主張する。一は機械の廢止を希ひ、他は無暗に機械をほめそやす。一は金貨を主張し、他は紙幣に左袒する。短言すると、一つとして同説が存在して居ない。社會科學の第一原理は一致して居ない、そして政治的論争の戰場は未だ何人の勝利とも宣告されて居ない様な有様である。

然し、斯から事態は最早永く續き得ない。人の心の中に常に黙々として然し確實に進歩しつつある知識は、遂には一般に普及しなければならぬ、而して今日社會制度の種々なる方面の改良に獻げられて居る才能の中のほんの一部が全體の統制のために用ひられる時には、現存せる多數の政治的變則は恰も影の如くに消滅するであらう、そして社會の状態は、數學に於ける比例問題のやうに、非常に分りやすくなるであらう。

吾々は、繁榮を確保するに必要な材料を殆んど全部所有して居る。而して吾々に缺けてゐる主なるものは、統制及び指導の力である。即ち、それによつて吾々の商業組織の各種の方面を相互に調節適應せしめ、以て不調和な全體ではなくて調和せる全體を作り出す所の、その力が缺けて居るのである。而して、斯かる力が正當なる原理に基いて設立せられるならば、その時にこそ吾々は、無益のつぶやきの中に生を嘆じ、そして貧窮と悲慘とは永久に人類の運命であると叫ぶことを止め

るであらう。吾が國の國民が比較的安易にして富裕なる状態に置かれても、吾々は、リザアブルとマンチエスターの市民が一時間三十哩の速力で兩地間を交通するのを見て吾々が最近經驗したほどの驚異を感じないであらう。かくて若し驚異を感じずるとすれば、その最大の原因は、吾々が極めて永い間吾々自身の利益及び國民的困難困憊の主重原因に對して盲目であつたと云ふ事に存する。

現代は、社會の商業的諸設備に完全なる改革を施すに特に惠まれて居る時代である。政府は自由主義であつて、改革を奨励するであらう。上流並びに中流階級は、他の階級と同様に、困難に陥り、——改革の促進を助けることが彼等の利益であるだらう。而して一般民衆は、最近の教育の一般的普及によつて啓發せられてゐるから、彼等が追求すべき進路について最早迷ふことはない。

社會の状態を進歩させる最善の手段は何であるかと云ふ事の考察に入るに當つて、吾々の心を固定不變の商業法則が存在すると云ふ信念から出来るだけ脱却せしむる事が望ましい。最上の結果を齎らすに適する諸法則を作るのが社會の任務であつて、積年の無知が吾々に遺した所の諸法則を穿鑿する必要はない。政治的研究者の正當なる目的は、現在如何に在るかと云ふ事ではなくして、寧ろ如何に在るべきかと云ふ事である。従て、吾々は、現存の商業原則に従つて如何にすれば人生の事務が最もよく指導され得るかの説明を主たる目的とする理論をば凡て、殆んど實際的價值のない

ものとして除外しても確かに良いであらう。斯かる原則それ自身は最も深い誤謬の中に樹てられて居る、だから根本的改正が加へられなければ吾々は自然が吾々に供給した無盡藏なる源泉の合理的充用から必ず發生する所の福音を享樂する事が出来ないのである、と言はなければならぬ。

上に述べた所から見ても、既にそれは單に新しい理論たるに過ぎないと云ふ反對を受け、それに引續いて「理論と實際とは非常に違ふものである」と云ふ陳腐な批評が出て來るであらう。併し乍ら、理論上正しいものは實際に於ても決して誤つて居ない、と云ふ事は眞理である。理論と實際とは、乗法と減法と同一の關係に立ち、兩者は相互に證明し合ふ。或る事實の除外、若しくは吾々の前に横つて居る事實に關する誤れる推理は、吾々をして經驗せられたるものとは異なる結果を期待せしむるかも知れない。しかし、それにも拘らず、眞實に理論上眞理たるものは實際上也亦眞理である、と云ふ事は不變の眞理である。

機關製造者は、紙上で結果を度つて見て、彼が機械に就いて正確なる製圖をとつたかどうかを確める事が出来る。何となれば、若しもそれが彼の運轉中に見た實物と合致して居なければ、彼は製圖をなすに當つて誤謬を犯したに相違ないと云ふ事を直ちに知るから。次に、斯かる場合の一例を考へて見る。或る人が、最近、機械の價値を評價する目的のために、エデンバラに於て、一機械の

寫圖をとる仕事に従事させられた。彼は、その仕事を完成してその製圖を彼の家に持ち歸り、翌日彼の雇主に向つて紙上にあらはれて居る結果は彼が實際目撃したものと同一でないから、是はてつきり機械の或る部分を誤つて寫したに相違ない、と述べ立てた。而して、もう一度檢べて見たら、確かに誤つて居る事が證明せられた。彼は主要車輪の齒を一枚誤つて計算して居たのであつた。

而して、各種の理論に就ても同様である。吾々は、是を看逃がし、彼を誤算するかも知れない。そして、吾々の計畫が實驗と云ふ試鍊を受ける時、その結果は吾々の期待に反するであらう。しかし、若しも結果が豫期に反する事が證明せられたならば、吾々は實際に見出される誤謬と正確に合致するものが紙上に在る事を確信しても宜ろしい。若しも、さうでないとする、實際何物を記述する事も不可能となる、何となれば、理論は記述の單なる別名に過ぎないのであるから。而して、若しも眞の理論即ち存在に先立つ正確なる記述が完全に理解せられた時に、それが約束する所の結果を少しも與へないならば、その結果が存在して居る後に於てさへも同様に全然信賴し得るものゝ記述を與へる事は不可能でなければならぬ事となる。

諸國の商事と云ふ様な廣汎なる問題を探究せんとするに際して、各事物が適當に考察せられ、問題の各部分に對して夫々その相對的重要性が與へられた事と充分確信する事は、疑もなく、非常に

難しい。而して、若しも理論を紙上に於て完成するための努力に一年を費すならば、吾々がその理論を實行に移す時には、いつでも改良及び變化が急に心に浮んで来る。然し、それだからと云つて、そんな理由を以つて理論の價値を無視しようとするのは健全な事ではない。何となれば、吾々は同一の原理に基いて、改良の疑はしい凡ての事柄に對して抗爭する事も出来るのであるから。

私は、今、諸國の商業的難局を全く取り除く事が出来ると云ふ事を提言せんとして居るが、その提言の手段に就いて意見を述べるに際して、讀者は次の事を念頭に止めて置いてもらひたい。即ち、私は、それを修繕せんとする目的を以て、二三の新しい發條或は車輪を舊式な破損せる機械の中に箴め込まうと提議するものではない、——その場合には、上述の發條或は車輪の効用は、それを使用せんとする機械の残りの諸部分と比較して考察される事を要する。私は、その機械自身をば、粗惡に構成せられたる、錯綜せる、修繕の餘地なきものとして、又無價値なるものとして（その構成材料は、大部分良質であつて、改造すれば非常に有用なる目的に變體せられ得るものであると云ふ事を除外すると）、全然棄て、しまふと云ふのである。

今此處に記述せらるべき社會的制度は、現在存在して居る社會制度とは別にして離して考察せられなければならない。兩者の間には殆んど類似點がないのであるから、部分は常に必ずしも部分と

比較せられ得ない。吾々は各々の社會制度を一個の全體として考へ、それが作り出すものと考へられて居る効果を判断しつゝ、榮冠をばそれを受けるに足る方に與へなければならぬ。

此の區別は必要である。何となれば、若しも吾々が社會的制度の一部分をとつて、それを非社會的制度に充用せんと試みるならば、それは既に完成せる機械に對して追加的車輪を加へんと試みるのと軌を一にするからである。そこには、その車輪を加へる場所がない。而して、他方に於て、若しも現在の社會制度を構成して居る所の厄介なる、錯雜せる、不便極まる諸部分を、その代用として提唱せられて居る新しい社會に適用せんと試みるならば、その時には其等の諸部分は大多數全く不用となり、從て何等役に立たないものとなる。

警戒を要する最う一つの誤謬——それは極めて一般的のものであるが故に、特に警戒を要するものであるが——は、單に提出せられたる結果のみを觀ることによつて凡てのものを判断する習慣であつて、凡ての人が斯かる習慣に陥り易いのである、そしてそれは不可能であると主張さへすれば彼等を満足させるのに充分である。例へば、若しも機關製作者スチゲンソン君が、自分は近い内に數噸の重さの車に乗りその中にその車を非常に急速に推進させる動力を備へつけて一哩の距離を二分間で旅行しようと志して居ると云ふ事を世に公表したならば、それは彼が理性的な人間ではなく

して狂人と考へられて居るのと同じの事となるであらう。此の目的を達成して見せると公表した結果は彼に幻想家・夢想家の稱號を確保せしむるに充分であつたが、近代に於ける斯かる奇蹟は實際に於てなされて來た、そして今尙ほなされて居るので、如何云ふ風にして奇蹟がなされるかを見て居るが故に、それが行はれても人々は別段に驚かなかつた。そして、その手段は推理に於ても事實に於ても目的の達成に適ふと云ふ事を發見して、奇蹟は、若しもそれが最初に理解せられるならば、全く驚嘆に値しない或る原理及び結合の當然の結果以外の何物でもない事を證明する。

扱て、一つの奇蹟が最近鐵道線路の上で行はれたからと云つて、それから直ちに他の奇蹟が社會科學に於ても行はれようとして居ると云ふ事が出て來るとは限らない。又、斯かる結論の引き出される事が目論まれて居るのでもない。しかし、茲に注意して置いた方が良い事は、屢々想像と實在とは隔りがあつたので、若しも吾々が常に凡てのものは不可能である（さう云ふ考に似て居るものを吾々は未だかつて實際に於て見た事がない）と云ふ信念を以てするよりも寧ろ一つとして不可能なものは存しないと云ふ信念を以て吾々の心を命題の探究に向けるならば、先づ命題に就いての吾々の判断は屢々一層正確であると云ふ事である。而して、それ故に、今提出した命題を考察するに當つては、目的は如何なる手段によつても達成し得ないと云ふ漠然として支持し得べからざる臆測に耽

らずに、手段方法は達成さるべしと提言されたる目的に適合するものであるか否かを公平に檢する事によつて、それに就いての正確なる意見が容易に形成せられるであらう。

多くの場合に於て、眞理が結局に於て一層確實に到達されるのは、原理と現存の事實とを調和させる事が一時的に困難なために、原理から心を撤回する事を認めるか或は又論争的著作に於て黒を白に變ずるために使用される無数の「若しも」或は「然し」なる語によるよりも、寧ろそれ自身に於て明かに正常なる原理に執着する事によつてである。例へば、吾々の願望の對象物を出來るだけ容易に手に入れようとするのが人類活動の固定せる原理である。斯くて、吾々は最短の途をとつて一地點に歩いて行く。若しも一の事を爲すのに多くの方法があるならば、吾々は吾々が知つて居て而かも行ふ事の出來る所の最も容易な方法を撰擇する。誰も或る品物に對して、要求せられて居るよりもより多くの貨幣を提供しない。斯くて、便宜と利益とは殆んど同義語である。それ故に、出來るだけ容易に吾々の欲求する物を得ようとするのが不變不動の眞正なる人性の法則である事は明かである。

成程、人は常に必ずしも一地點に至るのに最短の途を歩むものではない、と云ひ得るかも知れない。人は非常に迂路をとる様に致される、何となれば、………。然し、此の何となればと云ふ單

語は、人が一つではなく二つの目的を考へて居る事を證明する。人は、途が汚いとか、危険だとか、不愉快だとか、或は又故意に歩かんがために彼の歩行を延ばさうとして、最短の道を歩まない。然し、凡て斯かる場合に於ても役立つべき二重の目的があるのは明かである。それ故に、彼は尙ほ出来るだけ容易に彼の目的を達成すると云ふ不變の原理に基いて行動するのである。

此の法則を實際に適用せよ。機械の効果は労働を短縮する。例へば、手を以て棉花を紡ぐよりも、機械で紡ぐ方が容易である。それ故に、吾々の要求する所のものを産出するために機械を使用する事は永久に正しい事に相違ない。何となればさうする事は最も明白なる人生の法則に服従するものであるから、而して、茲に於て乎、吾々は、「若しも」と云ふ事をも「然し」と云ふ事をも又明白なる矛盾をも顧慮せず、吾々の立脚地を採るべきである。而して、若しも貧窮及び悲惨は機械の撰擇及び使用の否定し得べからざる結果であると云ふ事が證明せられたならば、然らばその證明はその他に別にもう一つの事即ち何處かに素破らしい誤謬が存して居ると云ふ事を立證する。

過度の説は、此の主題に對しては全く適用する事の出来ないものである。飲食する事は即ち自然の法則に服従する事である。過度に飲食する事は此の法則に背反する事である。しかしながら、自然の法則に對する過度の服従と云ふ様なものはあり得ない。そして、出来るだけ容易に吾々の欲望

を充足する事は、吾が足を以て歩き或は吾が舌を以て語ると同様に、明かに自然の法則なのである。

## 第二章 定 義

定義——原理の記述・解説、並びにそれが重要な事の強調——土地・労働・資本及び交換の自由は、富を構成する所の四個の成素である。

社會の商事を、生産が需要の整一にして誤らざる原因となると云ふ基礎の上に置く事は、決して難しくないのであらう。即ち換言すると、如何なる時に於ても、貨幣を得るために物を賣却する事は、正しく現在貨幣を以て物を買入れる事が容易であると同様に、容易である。

此の重要な事實を記述し、立證し、例證し、而してこれに對して民衆の注意を喚起するのに努める事が、本章の目的である。

此處に陳述せんとする原理は、平易且つ單純にして、現在人類の中に作用して居る原理と同様に理解し得べきものであつて、それは、分量及び價值に關しては何等の制限若くは制縛なしに理解せらるべきであるが、しかし種類に就いては制限がない譯ではない。その意味は、生産を無限にせ

よ、然らば私は諸君に無限の市場を見出してやるであらう、と云ふのである。諸君の生産力をば何十億倍せよ、然らばさうする事によつて諸君は生産物の販賣のための市場をも正しく同一の範圍にまで擴大する事となる。

人間は動物であり、道徳的知的の生物である、そしてその幸福は、彼の凡ての嗜好・感情及び知力の適當なる遂行及び満足より成る。それ故に、幸福に就いての技術は人間の凡ての仕事に就いての考察を包括し、極めて多くの部分及び部門に分れる。その一つ、而かも私が現在論議せんとして居る所の一つは、即ち生活が維持せられ尙ほ且つより精練せられより高い部門の科學の勉學研究の爲に餘裕が與へられる所的手段を獲得するための科學である。而して、各個人が此の物の便益或はあの物の効果に就いて如何に多く意見を異にして居ても、——吾々の主題の詳細なる諸點に就いて、丁度一本の樹木の饒多なる葉の様に、一般的優秀及び全體の美を減ぐ事なしに、如何に甚だしく一は右に傾き他は左に傾かうとも、——尙ほ且つ萬人が等しく認めなければならぬ二三の條件及び成素があつて、それ無しには社會が自然に到達し得べき程度にまで繁榮する事は社會にとつて不可能である。それは、即ち、

第一に、土地が充分でなければならぬ。

第二に、労働が充分でなければならない。

第三に、資本が充分でなければならない。而して、

第四に、生産は需要の整一なる原因でなければならない。換言すると、販賣は購買と同様に容易でなければならない。

之等の四つの條件は、國民的繁榮にとつて如何しても缺く事の出来ない必須のものであるから、それは吾々の生存を可能ならしむる所の諸要素と忠實に比較せられなければならない。

第一のもの即ち土地が必要な事は極めて明白であるから、此の問題を詳論する事は全く無用である。

第二のもの即ち労働は、富の源泉である、即ち『如何なる物に對しても支拂はれる所の本源的な購買貨幣』〔Adam Smith, Wealth of Nations. p.32. — 譯者註〕である。

第三のもの即ち資本は、極めて主要なものであるから、僅かに一日の食物（それは翌日までは消費せらるべきでない）を得るために、吾々はその時が到來するまで生命を支えるに足る所の貯藏物——即ち資本——を掌中に持つて居なければならない。

第四の條件即ち交換の緊急なる力は、繁榮の最後の成素ではあるが、しかし繁榮にとつて重要な

らざる成素ではないのである。此の第四の要素の欠除が即ち現に地球上の各文明國の邪魔物となつて居るものである。而して、社會は唯その要素の影をひそめた所に於てのみ存在し得たのであつた。何となれば、社會はその要素の代りに不完全な極めて劣悪なる代用物を持ちあはせて來たのであるから。未だ嘗つて適當なる交換手段を持つた事がなかつたので、社會は、種々の時期に於て、去勢牛・海貝・金屬・煙草・釘・珠數・金銀銅等の貨幣・銀行券・爲替手形・交易品・信用・及び其他種々の物品を交換手段として使用した。しかし、今日に至るまで合理的なる交換組織即ち交換を行ふための適當なる手段は未だ嘗つて一度も存在した事がなかつたのである。

如何なる時に於ても購買と同様に販賣をも爲し得る事が極めて重要であると云ふ事は、容易に證明する事が出来る。人々が自分自身の勞働によつて自分が使用する事を望む特殊の物品を作り出すと云ふ方法を棄て（此の事は、人が最初の存在の日以來殆んどなされて居たと想像される事であるが）、商人となつて、自分自身が獲得し生産したものと他人の勞働の部分とを交換して自分の慾望を充足するために自分の個人的仕事に注意を献げる事によつて生活し初めたならば、彼は彼の生活する社會に依存する人間となる。而して、その依存の程度は、社會の進歩に伴れ、人爲的慾望が増加するに伴れ、且つまた勞働の對象的が愈々益々人類の間に分割せられるに伴れて、無限に増加し

て來た。

例へば、林中の野蠻民族は、若しも普通の健康・力・及び知力を有するならば、林が彼に與へ得る衣食住を自分自身の勞働によつて自給する事が出来る。然し、何れの土地・植物及び動物も既に何人かによつて所有されて居る様な社會状態の中に生活する人即ち文明人は、自分自身に就いて見ると、萬物の中で最も頼りないものである。鍛冶工は鐵を食ふ譯にも行かないし、それかと云つて鐵を使用して衣服や住居をつくる譯にも行かない。野蠻人は獸物を殺してその肉を食ひ、その皮を衣服として身に纏ふ事も出来るが、然し文明人たる鍛冶工にはそんな眞似は一つも出来ない。彼は、自分の勞働を他人の勞働の或る部分と交換する事によつて、而かも唯だ斯かる交換をなす事のみによつて、自分の生活の糧を稼ぐことが出来るのである。而して、若しも彼が交換し得ないならば、彼は、生活資料の貯へのない時には、乞食をするか、借りるか、盜むか、或は又餓死するの外には施すべき術がないのである。

生産的階級の重要な事は、屢々或る状態の下に於て貨幣は不効用であるとの論によつて例證せられて來た。ロビンソン・クルウソーは、確かに、金の箱を、若しも彼がそれを所有して居たとしたならば、喜んで一箱の大工道具と交換したであらう。百萬の銀行券を、若しも彼がそれを所有して

居たとしたならば、同様に彼はよく資本が投ぜられて耕作された二三エーカーの土地に對して喜んで與へたであらう。併し乍ら、斯様な觀察の適用は貨幣のみに限られて居るのではない。吾々は一つのものだけで衣食する事が出来ないのであるから、此の觀察はたゞ、一つ丈けより存在して居ないものに對してはどれにでも同様に適用し得るものである。何となれば、人はパンのみによつては生きられない、人は他の食物及び衣服住居をも持たなければならぬ、そして、一の社會状態に於て或る人に對して彼自身の勞働によつて彼の欲する物を生産する事の困難が大いに増加するに従つて、一つの物を他の種々なる物と交換し得る事の必要はより急迫せるものとなるのであるから。ロビンソン・クルウソーにとつて生産し得ると云ふ事が重要であつたと同様に、彼にとつては交換し得ると云ふ事が重要なのである。

然らば、悪しき行動・不謹慎・或は偶然の不幸から生ずる特別の場合を除いて、——一般的に云つて、人類は自分の勞働と他人の勞働の部分とを、遲滞なく、困難なく、そして公正なる價格で、交換する權力を所有してゐるか。一言にして盡すと、明日大ブリテン及びアイルランドの全生産物が公正な價格で賣却されて貨幣を得る事が出来るか。一つの物——例へば家具の大ストック——を所有する人は、その物をば、交換によつて夥しい損失を惹き起す確實性なしに、他の凡ての物即ち

彼がそれと交換して獲得せんと欲する所の物の或る分量と交換する事が出来るか。此の質問に對して答へるのに、これは現在の社會状態に於ては明白に不可能であると云ふ事を以てするのは、殆んど無駄な事であつた。良く知られて居る通りに、可成り澤山に斯かる品物のストックを所有して居る人は、それを幾月も手許に持ち合はせて置いて、それを公正なる價格——即ち、使用せる資本に對して公正なる利潤と考へられる丈けのもの及び彼の商賣に於て爲されたる不生産的勞働に對する適當の報酬を加へた所の生産費以上の價格で手放し得る前には絶大なる注意及び勤勉を拂はなければならぬのである。

かるが故に、私は、現在の交換組織は非常に深い無知と迂愚との上に築かれて居る、と云ふ事をその人に話す。而して、私は、如何にして無限の分量の生産物を、凡ての場合に、短時間の中に、そして決して市場がストック過剰に至る機會なしに、即ち需要が生産によつて追ひ越される事なしに、上述の條件の下に於て、手放す事が出来るかと云ふ事を諸君に示す。加之、此の事を完成する手段方法は、非常に平易單純且つ實際的であるから、吾々が今日吾が祖先の魔術に對する信仰を顧みる時に經驗すると同一の感情を以つて、やがて後世の人々が現在の社會状態を顧みる時期が必然的に到來するであらう。吾々は、同一の時期に於て、しかも同一の心頭に迂愚と慧知とが同様に並

び存し得ると云ふ事に驚嘆を喫するものである。

扨て、此處に私が考察して居る主要目的は、如何にして生産が整一にして誤らざる需要の原因となされ得るか、と云ふ事を示さんとするに在る。然し、此の理論を完全に説明してその行はれる有様を示す事は、必然的に商業組織に就いての考察を包含するものである。

實際、社會に對して一の制度を與へんとする一冊の本の表題紙を見て、何と云ふ馬鹿々々しい事ではないかと問ひかける人がある。人類と共に野蠻時代から發達し、そして改正・自由貿易及び小額なる租税を以て發達して來た制度以外の社會制度が、何故に吾々の繁榮にとつて必須なるものか、全部であるか？それに對して、私は、此處に既にその設問が私に質問せられたる言葉を借用して答へる。改正・自由貿易・小額の租税なるものは吾々の繁榮に對して必須なるものの全部ではない。何となれば、人類と共に野蠻時代から發達して來た制度は、非常に重要且つ廣汎にして、その力に於て壓倒的なる誤謬を包含して居る。従てそれが取り除かれなければ、人類に本質的なる利益を授ける事は全然不可能である。而して、その誤謬と云ふのは即ち欠陥ある交換組織である。しかし、社會の商業的設備に極めて大なる變動を與へる事によつてのみそれを取り除く事が出来るのである。而して、斯くの如くにして、現在の制度——吾々は現にその上で活動して居る——とは色々の

點に於て異つて居る一個の制度の必要が生じて來るのである。

然し、何故に、單に、君が紹介せんと欲する特別の改良が何であるかと云ふ事丈けを記述し、そして人々をして詳細——彼はその大部分を既に知つてゐるのだ——の點に就いて君の説明を伺ふの骨折をせずに、その判断及びその摘用をば各人に任せないのであるか、と再び尋ねられるであらう。之に對しては次の様に答へる、即ち斯様なやり方は完全に理解する事の出來ないものであつて、それは提言された所のその事を爲す事によつて容易に示されるであらう。扱て、こゝに私が紹介せんとする主要なる特色の一がある。——貨幣の不足——それは各人の常に口にしてゐる所であるが——は大なる弊害である。そして、私はそれを救はんがために財貨の生産並びに貨幣の破壊を併行せしむる事を提言するものである。しかし、さう言ふと立ちどころに問はれる、さうするがために君はどうしようと提言するのか、又さうする事によつて如何なる利益があるのか、と。答へて曰く、此の本を御讀みなさい、と。

單純にして明白に無意義なる發見——例へば水が蒸氣に變る時には大なる空間が占められると云ふが如きもの——の結果として、社會に起る所の廣大なる變化を考へる事のみ慣れて居る人は、若しも何等かの手段によつて生産をば需要の原因となし得たならば、現在の社會が、將に來るべき

社會と比較して見て、誠に悲惨なる状態の下に在るのを承認しない譯には行かないであらう。

併し乍ら、吾々が原因結果の作用を辿る事によつて、既に確立せられた變動の結果が社會に對して如何なる影響を與へるであらうか、と云ふ質問に解答を與へんとする時には、吾々の人の心は積極的にその主題の偉大さに混亂せられ、而してわが倦怠せる思想は吾々を退守せしめ、それを不合理にも無限に探求する心をば譴責するかの如く見える。

こゝに主張する商業組織は、人間の完全性に關する思辨的理論とは何等關するところがない。それは各階級・各派・各黨派・各民の人々に對して同じ様に公開せられて居る。その商業組織は單に在來の交換組織及び合理的なる貨幣を要求するのみである。而して、それは唯だ文明社會の存在にとつて全く本質的なる行動の誠實の度合のみを以て、一般に行はれる様になるであらう。

然し、それは實行し得るものであるか。既にそれは實行し得るものであると云ふ事が答へられた。更に又一物の實行可能性の大標準は、それを實行に移すに値するか否かの問題の中に含まれて居ると云ふ事が答へられた。若しも、國中の全製造業者が現在の經營組織を變へる事によつて彼等の資本を用ひて二・五パーセントの餘剰を利得すると云ふ事を説ききかされたならば、それは殆んど利得を得るための骨折にも値しないものであると彼等が答へるのは、正當である。しかし、此處

て彼等に示される言葉は次の如くである。即ち、無制限に生産し、諸君が欲するならば労働の各生産物を増加するために魔術の力を用ひよ、しかも尙ほ、市場が決して過多にストックせられる事もあり得ないし、又諸君が生産する物を公正なる價格で賣るのに何等の困難もあり得ない。

確かに、此の經營組織の變更と云ふ事は完成せらるゝに値する物であり、闘ひとるに値する點であり、而して獲得するに値する賞與である。蓋し、その完成は不當の貧乏と云ふ言葉を未來の辭書の中に於て廢物たらしめるであらう。未來に於て政治家がもてあそぶ玩具たる國債、並びに道化芝居の一篇文章たる『貨幣の欠乏』と云ふ事は、後世の人々によつて彼等の祖先——即ち吾々自身の慧知の諷刺的喜劇の中に於て書き綴られるであらう。

何故に、現今に於て生産が需要の原因でないかと云ふ理由は、引續いて充分に説明されるであらう。成る程、經濟學者の或る者は「有效需要」は「生産に依存」すると云ふ、しかし斯かる學說の誤謬も亦、此の著作の進むにつれて完全に證明せられるであらう。

私は、私が今説明せんとしてゐる特殊の制度案が考察せられ得る最善のものであると信じて居る譯ではない。反對に、私は詳細の點に關しては種々に改良され得ると考へてゐるのは確かである。此の制度を推薦する主たる理由は、それが國民的繁榮に欠くべからざる四つの成素を實現すると云

ふ事である、——即ち、充分なる土地を獲得する手段、増加する人口の慾望に比例する資本の不斷の増大を確保する手段、勞働と勞働とを即座に交換する力、及び勞働者自身に就いて述べる、自然は或る制度の必要を充すために澤山の物を生産する様に思はれる。

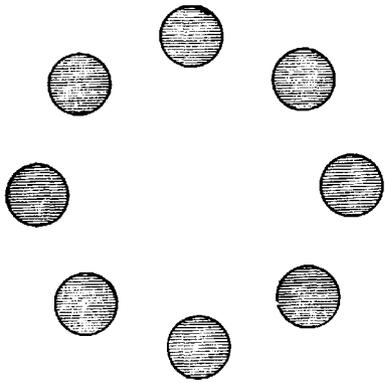
私は注意深く經濟學に關する最善の諸著作を讀んだ、そして如何なる方法で資本が組織的に人口と同様に増加する様になさなければならないかと云ふ事、及び如何にして生産が需要の整一なる原因となさなければならないかと云ふ事を既に先輩の著者が示したと云ふ事實を、若しも私が發見する事が出來たならば、社會的制度は決して書かれなかつたであらう。併し乍ら、これらの條件の重要な事は次の事を見ると良くわかる、即ち『賢者の石』の探求者は斯かる條件なしに國民的繁榮の状態を期待する人間よりもより大なる空想家ではないのである。後者は肺臟なしに呼吸したり或は腦髓なしに考へたりしようとする者である。

成る程、ミル氏は、彼の『經濟學要義 James Mill, Elements of Political Economy.』第二版の五十八頁に於て、次の事を認めて居る、『人口と資本との足並を併せるために用ひらるべき人爲的方法には二つある、人口の増加する傾向を減退せしむるか、或はその自然的步調以上に資本の増加を加速するか、その何れかの方法が追求せられなければならない。』と。然し、彼はその方法の一或は他

を行ふがために、如何なる實際的の企劃の採用をも提議しなかつたのである。成る程、彼は云ふ、『資本をばその自然的傾向より速かに増加せしむるために用ひられるあの有力なる方法は期望するが如き結果を生ぜしめないであらう。』と。然し、自然的傾向なる言葉は、現在の状態の下に於て自然的たる傾向——そしてその傾向は事情がその増加にとつて恵まれて居るか否かによつて或は急激に或は緩徐に増加するものである——以外の何を意味するか。

### 現在の制度

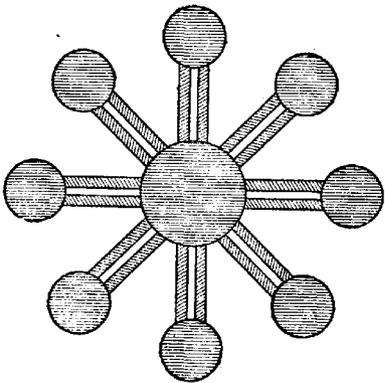
需要が生産の原因である。



あなたは御賣りになりますか？  
いやなんと！吾々は皆賣らうと思つて居るのだよ。

### 社會的制度

生産が需要の原因である。



賣買は共に容易である。

現在の制度、——諸々の圓は、社會の各種の成員を表はす心算である。それは、適當なる交換手段（現在使用せられて居る貨幣は、單に諸々の圓の一に過ぎないのである）を供給せられて居ないので、全集團が過剰に生産し得る所のものをお互ひに持つ事が出来ない。

社會的制度、——外側の圓は、社會の各成員を表はす心算である。溝は貨幣であつて、各人は一物を公共のストックに入れ、而して、彼が入れるものと交換に獲得せんと欲する物は何でもそのストックの中から取り出す事が出来る。中央に位する大なる圓は、富の公共的貯藏池である。

幾千の水の流の如く、各所にその水源を發し、異つた性質を有する富は皆、一大貯水池の中へ流れ込まなければならぬ。そして、そこで混ぜ合はされ、その各種の性質が合成せられて、其の富は生産者に對して各自の貢獻した分量と等しい分量で全體の性質の幾分かを有する物を以て返却せられなければならない。而して、貨幣は、單に各人にその人から受け取ると同じ交けの物を與へる目的のために使用せらるべき尺度たるに過ぎないものでなければならぬ。

### 第三章 商業的憲法綱要

商業的憲法綱要——土地及び資本の充用——指揮——賃銀——俸給、及び社會的制度の一般的原理。

本章の目的は、唱導せんとする制度の主要なる特徴を、關聯せる形式で、記述せんとするにあるのであつて、斯かる書物に被せられる事を要する汎ゆる頑固なる言葉を以て商業的憲法を表現せんとするのでは無いから、本章自身は『社會的制度の諸原理』と題せられた方が、適當であらうが、しかし『商業的憲法』と云ふ術語はその中に國民的繁榮獲得のために必要と思はれる諸要素の一に

就いての記述を包含して居るので、その方を撰んだ譯である。

細記せんとする諸原理は此處では殆んど議論及び例證を伴はない。しかし、全體の計畫が記述せられた上で、何故に、本著者の意見として、吾が商業的事件の中に非常に廣大且つ重要なる變化が命令的に呼び起されるか、と云ふ事を示す様な一般的觀察がなされるであらう。

扱て、次に提言せんとするは、相當なる人數の人間が、生活の必需品・便宜品・慰樂品・奢侈品の生産を同じ程度に、其等の物に對する需要のあやまたざる原因となす事によつて、其等の物を有効に供給するために彼等の資本が結合されるならば、彼等は左に列擧する諸原則に基いて行動する様に方針を定めなければならぬと云ふ事である。――

一、組合の事件を支配し監督し統制するために、組合長及び相當な人數の代議員が衡正なる方法で選舉される事。斯く選出せられたる代議員は、その局に當つてゐる間、優秀なる力を發揚する事、そして、彼等は總括的に國民的商業會議所と稱せられる事。

二、此の國民的商業會議所の議員は、その公の資格に於ては、凡ての政治的宗教的論議から手を引く事。彼等は各種の政治的意見及び各種の宗教的信條を有する人々を同等の正義を以て取扱ふ様にする事。彼等は専心の注意を商業上の利益に献げ、凡ての事に於て國家の既設の權威に服従し、

議會に訴願する権利さへも斷念すべく束縛せられ義務付けられる事。そして、其の國の商業的法則の變革が彼等にとつて望ましく或は必要に見える時にはいつでも、議員は其の問題を選舉民に提示し、必要なる變革は之を選舉民の請願に委ねる事。

三、土地或は資本を所有して居る凡ての人は、此の組合に加入する事を懇願される事、そして他の凡ての人々は其の組合の進歩が許すに従つて成るべく速かに其の組合員となる事を承認せられる事。

四、此の組合の組合員にして土地或は資本を所有して居る者は凡て其の物に付せられる評價價值を有し、土地の耕作或は資本の投下による利得損失の機會を彼等自身の掌中に收めて置く代りに、其等の物の使用に對して其の評價々値に比例して年々一定の報酬を受け取る事に満足すべきであると云ふ事。

五、凡ての耕作、製造業及び商業の指揮監督の權は商業會議局の手に收められる事。

六、土地の耕作、及び凡ての商業・製造業の經營は、商業會議所によつて一定の俸給で雇はれ其の指揮監督の下に活動させられる使用人及び支配人によつて委ねられる事。

七、製造品たると農産物たるとを問はず、各種の生産物は國立倉庫に貯藏せられ、商業會議所が

定めた俸給を受ける使用人及び支配人の管理に委ねられる事。

八、小賣商店は此の國立倉庫即ち貯藏所<sup>デポ</sup>から供給を受け、これ等の店は、又、商業會議所が一定の俸給で任用した使用人及び支配人の管理に附託せられる事。

九、凡ての貨銀並びに俸給は何等内在的價値を有しない貨幣を以て支拂はれる事、そして、商品の價格は、先づ第一には原料の原價、第二には労働の貨銀、而して第三には暫進的にして極めて急速なる資本の増加を保證するに足る様な、即ち後に詳細に述べる様な、地代・資本の利子・俸給・ストックの減價・不生産的労働・事變・及び凡ての國民的課税の費用を全部支拂ふ様なパーセンテージ即ち利潤から成り立つて居る事。

十、組合の土地・資本及び労働は、先づ第一に、人生の通常必需品・便宜品及び奢侈品を構成する各種の商品を國立倉庫に貯藏するために献げられる事。

十一、或る商品が國立倉庫の内に餘計に蓄積されて居る事がわかり、その結果その生産を以前と同様に繼續する必要のない事が證明されたならば、從來上述の品物の生産に用ひられて居た資本並びに労働の一部分は、直ちに猶豫なく、他の目的即ち未だ斯かる過剰が存しないと思はれる他の品物の生産に献げられる事。

十二、これ等の變動によつて蒙る損失及び損害は國民的勘定の中から支拂はれ、組合の勞働生産物の販賣に對するパーセンテージによつて支拂はるべき諸費目の一を形成する事。

十三、一の仕事を廢棄して他の仕事に就く間に必然的に經過する時期の間、勞働者は彼等が恒にもらつて居た一週間毎の賃銀の全額の支給を受ける事。此の費用も亦國民的勘定の中から支拂はるべき事。

十四、若しも、機械の大改良或は其他の原因によつて勞働の生産力が大いに増進し、その結果として現在市場に出す通常の供給の生産に必然的に用ひられて居る人數の中の僅かばかりの部分を以て充分に其の供給に對する需要に應じ得る事が證明されたならば、その時には次の單純なる法則に従へ。——吾々が人生の通常の必需品及び慰樂品を供給せられるや否や、吾々の勞働並びに資本をより裝飾的なる物及びより奢侈的なる物を生産するために充用せよ。そして、いつも生産が需要を超過すべきであると云ふ事は、恰も人類がいつも自分の所有して居ない物を欲望するのを止むべきであると同様に、共に不可能な事である。此の法則は何等の制限——何等の條件——何等の修正をも有しない。地球が廻轉を續けて居る限り、此の法則は確かに有利に其の活動を續けるに相違ない。

十五、國民的商業組合は、今日凡ての人々が彼等の所屬する各國家に於て政治的組合員であつて均しく同一なる法律に従ひ且つそれによつて保護せられ、私的財産の混同若しくは個人的權利の犠牲を蒙つて居ないのと全然同じ様に、それと同一の原則に基き商業的仲間の一團と看做さるべきである。

十六、組合の開始に際して必要とする借入資本を出来るだけ速かに返却してしまふ事が組合の主要なる目的たる事。而して、組合は自ら出来るだけ急いで組合自體の土地並びに資本を充分に準備する事。

十七、後で述べる様な方法を以て、國立銀行は組合の全取引に就いて正規の諸勘定を記帳する事。そして、その全受入額・支出額並びに其の財産状態を表示して貸借對照表を公表する事。

十八、何日何時でも、一定數の人は、國民的貸借對照表の中の不満足・不明白と思はれる點に就いて説明を求め、そして説明を受ける資格を與へられて居る事。

十九、商業的憲法は、詳細且つ明確なる形式を以て、起草せられる事。そして國民的商業組合が、その全取引に於て嚴重に商業的憲法の原則を固守すると云ふ制限の下に於て、その組合を認可し保護する様に國王の政府に謙遜に懇願する事。

二十、商業的憲法は、既設の政治的政府並びに商業會議所の相互の承認を以てするにあらざれば、決して變更せられざる事。

最近、私の爲めに、本章が未だ原稿であつた時に、それに目を投じて呉れた惻恰な一友人は、直ちに、此處に定立した社會的制度の諸原理と普通の株式會社の定款との間に類似が存するかの如くに感じた。一見すると、類似の存在は直ちに承認される、しかし、それは茸と毒菌との間、或は金と鍍金せる眞鍮との間に存する類似以上に一步も出ないものである。

兩者の間には次の様な差異が横つて居る。普通の株式會社は單に人間並びに資本の集合に過ぎない、株式會社の第一の目的は、他の商人達と競争する目的を以て、即ち例へば東印度會社の場合に於けるが如く貿易を全く獨占化する事に努める爲に、或る部門の貿易・商業又は製造業を經營して行くのに在る、而して私的利得と云ふ事が全事務の終局の目的である。

之に反して、商業組合の特殊なる目的は、生産を需要のあやまたざる原因となし、而して、生産・交換・分配及び蓄積の完全に有機化されたる制度を用ひて、勞働及び資本に——勞働が誰によつてなされ様とも、又資本が誰によつて所有され様とも——最大 possible の能率を與へるに在る。それ

故に、此の組合の終局の目的は、公衆に對して而してそれを構成せる各人に對して、その勤勉並びに富に比例する割合で契約的結合より生ずる全利得を與へるに在る。

而して、此の主題は、餘りにも廣汎であり且つ餘りにも複雑して居るので、一瞥した丈では飲み込む事が出来ない、そして又批評せんがために讀む職業的批評家が新しい小説に對して與へる程度の注意を以てしては理解せられないけれども、此の主題に就いて意見を述べる能力のある人なら誰でも少しく反省すると、非常に威嚴ある特質を有する國民的繁榮は如何しても此處に推賞せられて居る制度から湧き出して來なければならぬと云ふ事を理解し得るのである。何となれば、勞働階級が決して單なる一時間の仕事の欠乏のために困難すると言ふ様な事はあり得ない事となるから。又、職業に就いての個々人の心配もその跡を絶つてあらう。何となれば、勤勉並びに注意は現在と同じ様に必要であるけれども、破産或は失敗の形式を採つて現はれる不當の悲運は全く取り除かれるであらうから。又、より上級の階級は彼等の貨幣を投資するため大なる資金を備へて居る。そして、後に期を見て示す様に、政府は租税の徴收と云ふ極めて不愉快な而かも費用のかゝる仕事をしなくても濟む様になる。而して最後に、國民は、彼等の勤勉の竭盡・彼等の生産力の涸竭・或は彼等の慾望の満足以外に、彼等の富に對して制限が無い事を知るであらう。

斯くの如くにして、社會的制度の主要なる特徴を簡單に記述し了へたから、今や私は、進んで、より詳細且つ明白なる形式を以て、此の主題を觀察する事としよう。

#### 第四章 生 産

生産——労働は富の源泉である——財産の安固——分業——資本——常に需要が生産と歩調を共にしなければならない様に、製造業及び農業が經營せらるゝ方法の叙述。

汎ゆる人間の行動に共通なる目的は人生の享樂と言ふ事である、而して、享樂の全手段の根本的なる源泉は労働である。土地でさへも、その生産物を集めたり、増加したり、統制したりする爲めに労働が充用せられるまでは、何等の價值をも有して居ない。而して、資本、即ち蓄積せられたる價値物は、全く、富の生産或ひは獲得に用ひられたる努力の結果である。

然し、労働は富の唯一の源泉ではあるけれども、尙ほその外に勤勉に對する刺戟を増加し且つその作業を助成する所の他の條件並びに事情が存在する。それ等のものは、生産てふ主題を取扱ふに際して、是非とも考察に入れなければならないものである。

これ等の條件の一は、財産の安固である。それに就いて、マカロック氏は述べて曰く、『財産の

安固は、富の生産に對する第一の、最も欠く可からざる要素である。成る程、此の點に於ける財産安固の効用は極めて明白にして且つ顯著なものであるから、各國に於て、而かも原始の最も粗野なる時期に於て、此の事は多少尊重せられた。若しも幾月も幾年もの骨折の後に、彼の家畜の數が澤山になり、又彼の收穫が彼の鎌に對して潤澤になつた時に、他人が彼の勤勞の生産物を盗みとる事が許されるならば、——誰も野獸を飼ひ馴らしたり土地を開墾したり耕作したりしようとはしないであらう、——即ち、誰も骨の折れる仕事に従事しようとはしないであらう、と言ふ事は明白である。』

併し乍ら、若しも財産の安固と言ふ事が勤勞の鼓舞にとつて不可欠のものであるとするならば、分業と言ふ事も其の重要さに於てはそれに劣らぬものである。何となれば、勤勞の生産力を増加する手段として、分業の價値は實に莫大なるものであるからである。

此の分業の原理から生ずる利益は、通常、次の項目の下に分類せられる。『第一、勤勞者の熟練並びに器用の増加、第二、通常一業から他業に移る時に喪失される時間の節約、而して第三、分業と言ふ事情は、機械の發明及び勤勞の短縮節約の過程を便利にする傾向を有して居る。』

分業に由來する熟練の増加については、ミル氏によつて、『經濟學要義』の中で、次の様に述べ

られて居る。即ち『此の種の改良の基礎となつて居るものは、吾々が最初は緩漫に行ふ作業をば、それを反覆するに伴れて、次第々々により大なる速力を以て完了する能力である。是は、人々に極めて親しみがあり而かも良く理解せられて居る人間性の法則であるから、殆んど解説の必要を見ないものである。凡ての作業の中で最も單純なもの、即ち太鼓を規則正しく叩つ作業は、その適例である。その作業を實際に行つた事のない人が屢々試みて見て、その叩き方ののろいのに驚かされる、所が常に太鼓を叩つのを業として居る鼓手の速いには尙ほ更驚かされる。』

分業によつて生ずる所の時間の節約に關して、マカロック氏は曰ふ、『一人の人が各種の仕事に従事して居る時には常に一業から他業に移るに際して時間を浪費する。斯かる時間の浪費を妨ぐと言ふ點に於て、分業の効果は、労働者の熟練及び器用の進歩から生ずる利益よりも更に著しいものがある。同一の人が、異つた場所で、而かも恐らくは離隔せる場所で、異つた道具を以つて、異つた仕事を行つて行くならば、彼はそれ等のもの間の移動するために大なる時間を失ふのを避け得ない事は、明白である。若しも一労働者の従事して居る異なる仕事が同一工場内で行はれるならば、時間の損失は前の場合よりは少くないであらう。然し、その場合に於てさへも、時間の損失は極めて大きいであらう。』而して、又、『機械の發明及び労働の短縮・節約を便ならしむる點に於け

る分業の効果に就いて見ると、各種の物に心を散亂して居る時よりも、全心の注意を悉く一つのものに集注して居る時の方が、或る産業部門に従事して居る人々をして、その仕事を經營するための容易且つ敏速なる方法を發見せしむる見込が一層多いに相違ないと言ふ事は、明白である。』

然し、分業から生ずる利益に就いては、屢々記述せられ、今や一般に理解せられて居るから、此處では單に社會科學の既存の原理として、經濟學者の言葉の儘で、それを認めて置けば澤山である。

生産にとつて本質的にして、それなくしては如何なる著明なる進歩も繁榮も齎らし得ざるもう一つの條件は、資本の蓄積と言ふ事である。是に就いては後に詳しく述べるから、只今の所ではもう一つだけ引用しておけば、それで充分であらう。マカロック氏は曰ふ『如何に器用なる農夫でも彼の鋤鍬を奪はれたならば、何を爲し得るであらうか。——織工は彼の織機を奪はれたならば、何を爲し得るか。——大工は彼の鑿・鉋及び鉋を奪はれたならば、何を爲し得るか。分業は、豫め資本の蓄積なくしては大規模に行はれ得ないのである。』と。アダム・スミスは言ふ『分業の行はれる以前に、労働者を維持し、彼に材料と道具とを供するに足る丈の各種の財貨のストックが何處かに貯えられて居なければならぬ。織工は、彼の仕事を完成するのみならず又彼の織物を賣却して了ふまで、彼を維持し彼に仕事の材料及び道具を供するに足るストックをば、彼自身の所有或は又他

人の所有に於て、豫め何處かに貯えて置かなければ、彼の特殊なる仕事に専心従事する事は出来ない。明らかに、此の蓄積なるものは、彼が斯かる特殊なる仕事に永い間従事する事に、先行しなければならぬのである。』

然し、前述の考察は、それが如何に經濟學の主題に關する組織的論述にとつて欠く可からざるものであるにした所で、特殊なる原理の證明を主たる目的とする著作に於ては、それは殆んど細論の要を見ないものである。そして、吾々が製造業に就いて個々別々に語る時には、恐らく、生産は原料・資本及び勞働の結果である、と言ふ風に、より解り易く定義するであらう。扱て、本章の任務とする所は、商品の生産は現在行はれて居るよりも一層有利に行はれ得ると言ふ事が如何言ふ風にして信ぜられるか、と言ふ事を示さんとするに在る。而して、若しも讀者が最初に前章で述べた社會的制度の原理を知らうと努力するならば、彼は本章並びに續いて出て來る諸章の内容をばそれだけより容易に理解するであらう。

既に、次の事は理解されて居るであらう、即ち社會制度は、有用にして唯一つの支配監督の權力即ち如何なる種類若しくは品質の物を市場に齎らすのが慎重にして適當な事であるかと言ふ事の審査人——商業會議所——を認める。その審査人は、何日何時でも、各種の財貨の手許有高を調べる

手段を有して居るから、常に、生産は何處に於てより速かに行ふ可きか、何處に於て順調に行はれて居るか、又何處に於て減すべきか、と言ふ事を直ちに發表する事が出来る。

それ故に、現に製造業者の親方と稱せられて居る人々は、組合の一代理者となる可きである。何となれば、彼は、要求次第で彼の生産の程度を増減し、若しくは必要とあらば彼の仕事を全部廢止しなければならぬから。而して、一寸考へれば判る様に、若しも二個の工場で充分な時に、三個の工場が存在するならば、如何なる場合でも、三個の工場が相互に競争してその結果その中の何れかが生存圏内から驅逐せられるよりも、寧ろ直ちにその中の一工場を廢止する方が有利である。人間は飢餓の滿された時には食ふ事をやめる、而して、國民は、或る品物を充分豊富に持つて居る時には、その品物を造る事をやめなければならぬ。

然からば、斯かる變動の結果を観察せよ。それは、社會的制度の原理の上では、惡にあらずして、善を作り出す。今、甲及び乙が生活必需品の生産者であつて、必需品の價格は二人の勞賃に等しい、と假定しよう。所が、甲は自分自身のためのみならず又乙の爲めにも充分なる生活必需品を生産し得ると言ふ事が、間もなくわかる。その結果、如何？ 二人に對する生活必需品の價格は今や一に減ぜられる。それ故に、乙は將來贅澤品を生産する。彼の供給即ち一は、又一に對する彼の

需要である。斯くて、甲及び乙の全生産物に對して市場がつくられ、兩者は今や贅澤品を身に着ける事が出来る。何となれば、乙が生産した贅澤品の半分は、乙が甲の生産した必需品の半分に對して與へる所の等價物であるから。

然し、斯う言ふ場合は、現在の交換組織の下に於ては、見る事が出来ない。かるが故に、過剰生産てふ主題に就いて、無數の議論が生ずるのである。第一流の知識階級の一人が、その最近の著作に於て、此の問題に關して述べて居る所を見給へ。ジョージ・クーム氏は『人間の構造 George Combe, The Constitution of Man.』と言ふ論文に於て述べて曰く、『機械並びに科學から生ずる助力によつて、土地は耕作せられ得る、而して、想像し得る凡ての必需品及び贅澤品は、労働の通常の出費によつて、即ちそれ自身に於て過剰ならざる人口によつて、過多に生産せられ得る。若しも此の點に到達した時には何日何時でも吾々は斯かる生産をやめて各々の日の殘餘の時間を道德的並びに知的追求に献げる事としたならば、その結果過剰にストックされる事がなくなるから、市場は敏速且つ確實となるであらう。』と。更に述べて曰く、『英國の労働者達は、一日十時間、十二時間、或ひは時として十四時間もの労働を課せられて、彼等の肉體的並びに精神的精力は涸渴せしめられる。かくて、彼等労働者は全然無能となり、労働以外に道德的並びに知的追求に對するの餘裕を少

しも残さなくなる。その結果は斯うである、即ち全市場には生産物が過剰にストックせられ、物價は最初は途方もなく低落し、その時労働者は、閑散状態に投げ出され、彼等の以前の過剰労働が造り出した餘剰生産物、或ひは恐らくはそれよりも多くの物が消費せられて了ふまでは、生活必需品の欠乏の中に取り残される。斯様な状態が発生すると、供給が需要以下に下落した結果として、物價は非常に高騰する。労働者は再び彼等の以前の過剰労働の組織に基いて仕事を始める。彼等は再び市場を過剰にストックし、そして再び暇にされ、恐る可き悲惨に苦しむのである。』と。

若しも生産が需要の整一なる原因であるとしたならば、斯かる状態は全然発生し得ない。若しも、合理的なる交換組織が採用せらるるならば、確かに、最早、人々は一日に十二時間或ひは十四時間も身を粉にして働く事をやめるであらう、と私は思ふ。何となれば、適當に教育せられるならば——それは國民的繁榮の避けがたい結果であるが——人々は必ず前述の時間の半分働き、他の半分を享樂する事を撰ぶであらう。しかし、私が主張するのは、若しも人々が一日に二十四時間働き、尚ほそのみならず、各人の労働が五十馬力の蒸汽機關の働らきと同じであるとしても、此處に推薦する交換組織に基くと、生産は決して需要を超過する事が出來ず、又市場はただの一時間も過剰にストックせられ得ない、と言ふ事である。蓋し、ミル氏が誤つて現在の組織に就いて述べて

居る様に、『需要と等價物とは轉換し得る言葉であつて、一は他に代へられるであらう。等價物は需要と呼ばれ、需要は等價物と呼ばれるであらう。』市場に齎らされる生産物の種類は、必需品から贅澤品に變化し、贅澤品から浪費品に變化するであらう。諸々の自由職業（實際、辯護士業でもなく醫業でもなく、繪畫・彫刻・音樂並びに其の他多數の藝術）は、非常に増大するであらう、然し、そこには最早「在荷過多」は存しないであらう。

製造業並びに農業の行はる可き方法の一般的見本として、建設せられる必要のある建物及び機械並びに仕事を經營して行くために商業會議所が雇ひ入れたる支配人によつて雇ひ入れらる可き一定數の労働者を假定しよう。

然らば、第一に、組合の委託代理者としての支配人は、彼の公の資格に於て、彼が使用せんと欲するものは何でも無制限に支配し得るの權利を有しなければならぬ。即ち、財貨それ自身を構成する主要原料のみならず、石炭・化學染料等の如く、生産行程内に於て消費せられるものを、例へば一千磅の金額まで供給せられなければならない。而して、直ぐ後に述べる様に、銀行から最う一千磅の金額まで貨幣を供給せられなければならない。雇傭せられたる労働者は、上述の原料から一定分量の財貨を生産し、彼等の賃銀の支拂として一千磅を受け取る。諸々の財貨が各々國立倉庫に

移送せられると、銀行に於ける代理者勘定は直ちに平均せられる。國立倉庫に移送せられたる財貨は、代理者に委託せられた原料及び貨幣に對して要求せられる唯一の支拂である。

それ故に、斯くの如くにして生産せられたる財貨の直接の原價と呼ぶる可きものは、原料並びに労働のみから成り立つて居る。而して、斯かる商事状態の下に於ては、それ等のものゝ價格に、地代とか經營とか言ふ様な他の諸經費は少しも附け加へる必要がない様である。

各種の生産的事業は——それが、例へば、鑽石を採取し、或は棉花を紡績するが如く、他の製造業に使用するための原料のみを採取し製造するものであるにしても、或ひは市場に出すための完成品を造るものであるにしても、或ひは又此の兩者から成るものであるにしても、——斯くの如くにして、現在の社會制度——其處では、製造業者は、財貨を生産した後に、自力を以て市場を見出さなければならぬ——とは全く比べ物にならない程度の便宜と利益とを以て經營せられるであらう。組合をつつた製造業者には、市場を探し求める必要なく、顧客を値切る必要なく、大負債をおそれる必要なく、彼を惱ませる金錢上の考慮は少しも無く、又彼を困らせる商業上の錯綜は少しも存しないであらう。彼は、單に平明にして單純なる義務を遂行し、而してその報償として澤山の俸給を受け取らなければならぬであらう。

既存の製造業者は、現在の制度がより良い制度をとる様に努められなければならない、と言ふ事だけを理解しさえすれば良いのである。成る程、若しも利潤額がより良い制度に於てより大であるか或は尠くとも同一であるならば、偶然を確實と交換するのに、永い間躊躇する人は殆んど無いであらう。而して、目下提案中の計劃に基くと、製造業者は、最初の間即ち社會的制度の廣大なる優越性が世間一般に認容せられるまでは、彼の資本の法律上の所有權を保持して商業組合の組合員となる事によつて、確實なる大收入を得る。第一には、彼の建物並びに機械の使用に對する一定額の支拂により、第二には、彼自身の工場の支配人として俸給を得る事によつて。

農業は正に之と同一の基礎の上に置かれなければならない。組合の土地は全部受託代理者によつて耕作せられ、生産に必要な原料は全部國立倉庫から供給せられ、而して彼等の使用人に支拂ふ可き貨幣は銀行から供給せられる。而して、その代償として、全生産物は他の國立倉庫即ち貯藏所に移送せられなければならない。例へば、ある農夫は一定量の土地を委託せられる、そして一般的耕作案について指圖をうける。彼は、労働者を雇ひ入れ、任意に銀行から抽き出し得る貨幣を以て彼等に支拂をなす、そして彼の穀物及び家畜をば要求通りに國立倉庫に移送する。此の場合に於ける生産物の直接の原費は、それ故に、製造工業に於けると同様に、費消原料と費消労働とから成

る。

既に本章で述べた所の、分業に對して存在する制限は、此處では特に注意に値する。分業は、常に、市場の廣狹によつて制限されなければならない、そして斯かる分業の利益は既に吾々が觀察した所のものである。然し、若しも或る一作業が、その中に於て行はれる分業の範圍が狭いがために、一人の労働者を専門的の其の一分業に従事せしむるに及ばないならば、彼は一つでは無く澤山の仕事に従事させられるに相違ない。その結果、その労働者は仕事に精通する事がより、少くなくなり、一層不生産的になる事は避けられないであらう。

斯様な事實は、以て提案せる社會的制度の諸利益の一を例證するに足る。市場は、現在に於ては、商人と商人との間に存する競争によつて制限せられて居る。例へば、同一事業に従事して居る他の大工と競争する一大工は、彼の労働の結果に對して比較的に極く小さい市場を有するのみである。しかし、若しも、目下、同種の小さな商館が十二在る所に、その代りに唯一つの大なる商館が設立されるならば、分業並びにその結果としての生産物は大いに激増せしめられるであらう。

又、其處には、同様の原理の作用によつて、労働の生産力を驚く可き程度にまで増大せしむる所の他の特質がある。目下、機械が全然用ひられないか、或は又非常に程良い程度に用ひられて居る

各種の事業・並びに個々の企業が小さいので極めて不利な事情の下に在る極めて多數の各種の事業の中に、機械が急速に採用せらるゝであらう。一定の商賣に於ける個々の事業の数が甚だ多いのは、それを經營するに要する資本の小なるためである、と言ふ原理が現行専ら行はれて居る。斯くて、ロンドンには、石炭商人が無數に居る。實際、餘り澤山居るものだから、如何なる仕事をも甘くやつて行けない時には石炭商人となつて、石炭の華客を見付けて呉れる様にと懇願しながら、彼の伯父や従兄弟達、並びにその又伯父や従兄弟達を責めて廻る、と言ふ事が格言の様になつて居るのである。それは何故であるかと言ふに、吾々はロンドンに於ては六片銀貨一枚持つて居なくても石炭商或ひは尠くとも石炭代理商になり得るからである。

併し乍ら、石炭の販賣は、機械が使用されて居る商賣ではない、そしてそれは單に經營に要する資本の金額によつて大いに制御せられて居る多數の事業の中の一例にすぎない、と考へられて居る。轆轤細工は屢々同様に小規模に經營される所の他の事業である。それは、現在では、多數の小さな仕事場に分割せられて居るので、二十人の轆轤師に就いて調べて見ても、その中には機械力を使用して居る者は一人も居ない。それ故に、機械の代りに五十倍もの費用をかけて人間を使用して居るのであらう。何となれば、若しも是等の小さな經營の百位が一大經營に結合されるならば、一

臺の蒸氣機關が全部の爲めに機械力を與へる事となるであらう、そして大工場の場合に於けるが如く、別々の作業は更に大いに細分せられるであらう。

なほ之以上、他の商賣の例を擧げて、斯様な議論を續けて行く必要はない。實際、此の點に於ける變化が極めて有利なものであるが故に、その利益を眞實に描寫しても、それは法外な誇張だと思はれるかも知れない。併し乍ら、殆んど例外を許さない法則として、機械が如何に手廣く使用されても餘りに廣く使用され過ぎたと言ふ事はあり得ない事、及び常に一作業の遂行に従事して居る人は、絶えず道具をとり換へたり、一業から他業へと移り變つて居る人の幾倍かの仕事を爲すと言ふ事が擧げられて居るのであるから、現在の商業社會の制度が是等の極めて有利なる原理の作用を出来るだけ狭い局限内に閉ぢ込めて置く様に案配されて居る事は、驚く可き程である。此の事は、少し考へると、直ぐわかるに相違ない。（未完）